

東北・網張スキー場周辺・八甲田周辺

T野

メンバー：T野・N井・T村m・K井・Y科・A原・T村e・T木・K田

2025年12月27日～31日

今年の年末は暦の並びが素晴らしく、12/27が土曜日のため、休みを取ることなく12/31まで5日間の連続休暇となる。昨年も4日間と長かったがそれをも上回る最高の暦だ。

ただ、残念なことに、クリスマス寒波ならぬ、10年に1度あるかどうかのクリスマス暖波がやってきて、せっかく積もり始めた雪が、一気に解け、さらに、年末も暖気優勢の気候が続くという予報であった。

まあ、豪雪の八甲田なら最低限の雪は何かあるだろうが、念願のパウダーはかなり期待薄だ。ましてや網張周辺は積雪が40cmしかないの、いつも滑っているサイドカントリーは絶望的だ。ということで、休みは多いのだがモチベーションはダダ下がりという状況での出発となる。

わずかな期待は、直前に予報が変わって、12/26～27は寒気が来てそれなりに雪が期待できそう、という予報に変わったことだ。

「ガンバレ寒気！！」ということで報告です。

12/26

N井さんが、夜出発ができなくなったため、急遽、T野車に4人、T村車に3人が乗車してそれぞれに出発。上河内SAで合流し、古川にある格安の宿に向かう。東北道はところどころ雪が舞い、いい感じである。もっと降れえ～！！

12/27 網張スキー場周辺

メンバー：T野・T村m・K井・Y科・A原・T村e・T木



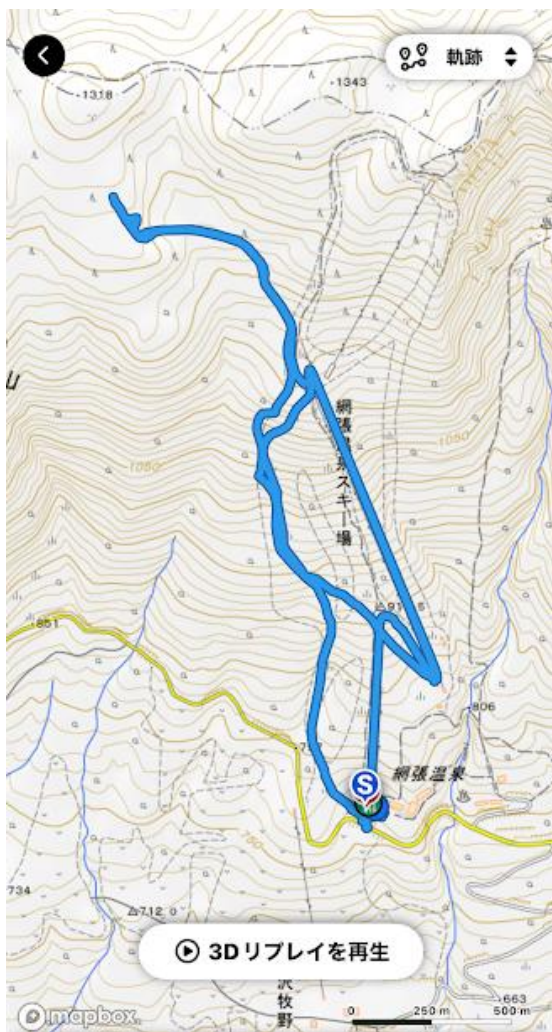
早朝、網張スキー場に向け出発。途中、盛岡の吉野家で朝食を採り、10:00頃にスキー場着。

■写真 網張の森で雪の感触を楽しむ！！

スキー場は昨日からの積雪で20cm増えて60cm。ゲレンデを滑るには十分な積雪がある。ただ、それでも雪は少なく、吹雪模様ということで、今一つモチベーションは上がりず。

リフトから森の様子を覗きこんでも、入るのは、まだちょっと厳しそう。

リフト 3 回券 (¥1500) を購入し、リフト 2 本登って、まずはゲレンデで足慣らし。先週、転んで痛めた肋骨が気になるが、転ばないように注意して滑れば、まあ、大丈夫か。



我々はどちらかといえば、ゲレンデで繰り返し滑るくらいなら、雪が少なくても森の中を歩いていた方が幸せ！！というメンバーが多いので、最後のリフト券で登った後はシールを貼って森の散歩に出かけることにする。

嬉しいことに、ゲレンデ上部は雪も増えて、大松倉山に向かうツアールートには十分な雪が積もっていた。フワフワの雪の中でシールを貼って歩くのは、「またこの季節がやってきた！！」と幸せな気分になれる。我々の前に先行者がいるようでトレースが奥の方へと続いている。すると、上の方から結構大勢のパーティーが滑ってきた。このトレースの人達であろう。少し話をすると、どうやら恵理さんの知り合いのようだ。大松倉山まで行ったが風も強く視界が悪いので引き返してきたそうである。

我々は、この後、青森の大鰐温泉まで行かなくてはならないし、初日から無理をしたくないので、適当なところ (1273m付近) で行動を終了して降りることにする。

森の中の滑降は、それなりに楽しく、「やっぱり、ゲレンデよりずっといいね！！」という声があちこちで聞こえる。楽しく滑ればあっという間にゲレンデに出て、あとはゲレンデを飛ばして下山。大鰐温泉に向かう。



■写真上 12/27の軌跡

■写真下 大鰐温泉の温泉宿は学生の合宿所を彷彿させる。

ただ、ここからが大変だった。かなりまとまった雪が降ったようで、東北道の安代IC～鹿角八幡平間が通行止めになっていて、安代ICで高速を下ろされてしまう。この後、高速に沿

った国道を行くのだが、ここでピタッと車が止まって微動だにしない。どうやら前の方でスタックしている車があるようだ。いつもで待っても埒が明かないのでUターンして、遠路、八戸～三沢～青森経由で大鰐温泉を目指すことに。あと 80 km そこそこで着くはずだったが、その倍以上、約 200 km も走らされることになった。しかも、前が見えないほどの大雪で、除雪が間に合わず道路はグチャグチャ、いつ事故が起きてもおかしくない状況である。それでも、一番安全なルートがここなので、ここに行くしかない。食事をする余裕も時間もなく、時間がどんどん過ぎていき、不安に思ったのか、宿から確認の連絡が入る。我々より早く現地に到着しそうなK田さんに連絡を取って宿のチェックインを一任することにする。こんな調子だと、今日夜、合流予定のN井さんの到着はいつになるのだろうか？

我々は腹ペコ状態で何とか 20:00 過ぎに大鰐温泉に到着。開いていた「ドライブインさばいし」でようやく食事にありつけ、21:00 頃ようやく宿に到着。

昨日もそうだったが、格安で泊まれる宿の部屋は、まるで、学生時代の修学旅行を思い出すような雰囲気、今にも枕投げが始まりそうだ。学生時代は枕投げ、今は、地元の銘酒を数種類買い込み、皆で試飲会！！どっちも楽しいね！！

結局、N井さんは日付変更線前後に宿に到着、ようやく、今回のメンバー全員が合流した。大雪はウエルカムとはいえ、雪に翻弄された大変な1日であった。

12/28 北八甲田・雛岳

メンバー：T野・N井・T村m・K井・Y科・A原・T村e・T木・K田



相変わらず、吹雪模様なので、比較的安全に森の中で楽しめる雛岳に向かう。昨日の状況から考えて、大雪で城ヶ倉大橋手前のゲートが開かない可能性が高いと考えて、青森中央まで高速を利用して、青森経由で田代橋近くにある登山口（高原茶屋）に向かう。急がば回れた。

登山口を 9:03 出発。すでに数パーティー入山しているようでトレースはバッチリある。今日のトレースは東斜面方面に延びている。西風が強いのでこの判断に僕も賛成！！少しでも風の影響が少ない方がよい。最初はほとんど傾斜を感じないので、復路が滑るのか心配になる。

歩き始めてすぐのところに「田代神社」の赤い鳥居があった。「アレ、こんなところに鳥居なんてあったっけ？」ここを何回か訪れているメンバーも見ることがなかったので、きっといつもは埋まっているのだろう。それだけ今年は雪が極端に少ない、ということである。まずは手を合わせて安全登山をお祈りする。

■写真上 入山すぐに現れた田代神社の鳥居。

■写真下 雛岳下部の素晴らしいブナ林！！



訪れるたびにいつも思うことだが、雛岳下部のブナ林がホントに素晴らしい！！

ここを訪れる時は、いつもあまり良い天気ではないことが多いのだが、ここのブナ林は、まさにそれが良いのである。モノトーンの森の中は、深閑とし、まるで、水墨画の中を散歩しているような気分、といえはよいのだろうか？ 鳥海山にあるような曲がりくねったブナではなく（あれはあれで趣があって良いのだが）、スクッとまっすぐに伸びた白く斑点のある幹に、



半面だけ雪が張り付いて、風もなく静まり返っている森は、「あー、また、雛岳に戻ってきた！！」と実感できる、いわゆる、僕にとっては冬の風物詩だ。

やがて、標高 700mを越えると、雛岳は徐々に傾斜が増してくる。この辺りから上が雛岳では、滑って一番楽しいところである。少雪のくせして昨日から一気に雪が降ったので、トレースを外すと板を履いていてもヒザ上まで潜りスキーのトップが雪面にでない。

これでは先行者はさぞ大変だろう・・・と思って登っていくと、今、まさに先頭が苦勞する姿がすぐ上に見えてきた。ここまでのラッセルに感謝して、我々も少しは役に立たねばならない。まず、我々のエース、K田チャンを投入！！

力強いラッセルでグイグイ登て行く。今回は、こんな天気なので山頂には拘っていない。だから、時間的には余裕がある。良い機会なので、ラッセルは強い人だけではなく、メンバー全員で回して経験してもらう。「10 歩でも 20 歩でもいいから」といって交代してもらうが、皆、存外に頑張り、重雪のヒザラッセルを楽しんでいる。

■写真上 ブナ林に行く！！

■写真中 雪山は楽しい！！

■写真下 今日の引き返し点。



一方、ここまで先行していたパーティーは、我々に一番美味しいところを先に滑られては堪らない・・・と思ったかどうかは定かではないが、すでに少し下で滑降の準備をしている。

我々は無理しない程度に登れる

ところまで行く代わりに、おかわりはパスする算段である。雛岳の斜面は広いので、ノートレースの斜面はいくらでもある。焦って滑ることはないので、今日はゆっくりと深雪のラッセルを楽しもう・・・と思っていた。

ところが、1000m付近でシールトラブルなどもあって、パーティーが分断してしまう。こういう時こそトランシーバーの出番である。下にいるメンバーは「待ってる！！」と伝えてくるが、そこまでしてまで無理して登ることもないだろう・・・と考え、1030m付近を今日の終了点とした。今回はあと3日もあるので、メンバー全員が、それほどガツガツしなくても良いのでは・・・という判断であった。

さて、いよいよお楽しみの滑降である。



降ったばかりで、まだ十分に雪が締まっていないので、踏むと底が沈み、滑るにはやや難しい雪質だ。それでも、傾斜のある場所は、慌てずにしっかり踏んでやるという感じで滑って行ける。他のメンバーはどう感じたかはわからないが、僕としては、スピード感はそ

れほどないものの、まずまずいい感じの滑りが楽しめた。

ただ、雪が深すぎるので、トレースのない平坦地に滑り込むと、シールなしの脱出が難しくなる可能性がある。自由気ままに滑って行けるわけではなく、緩斜面では必ずトレースに戻らねばならない・・・というのがちょっと面倒臭い。

傾斜のない下部は、トレースを外すと全く滑らないので、登ってきたトレースをひたすらに滑って行くしかない。もうちょっと雪が締まったら、きっと自由自在に滑れて、おかわりをしたくなるのだろうが、今回は、そんな理由から「ぜひ、おかわりしたい！！」というほどではなかった。それでも、昨日と違って、急斜面ではしっかり正面を向いて滑りを楽しめたのが良かった。

■写真上 ちょっと重いけど「パウダー！！」

■写真下 12/28の軌跡。



今日の下山飯は、珍しくネパールカレーの店。名前は、確か「ポカラ」。カレーはもちろん美味しかったが、ナンが「食べ放題」で凄く美味しかったので、皆、限界を忘れて食べ続け、最後は付けるカレーもなくなり、気合

で口に入れていた。いい歳をして「タダ」と聞いておかわりをしないメンバーは、今回、存在しなかった。スキーはおかわりしないくせに・・・である。もっとも、言っている僕も、もちろん、その中の一人であるのだが・・・。

そして夜は、地元の銘酒祭り！！

「じょっぱり」「蔵衆」「杜来」といった青森の銘酒を並べ、K田チャンが長野から持参した「川中島」を飲み比べ！！地方を訪れた時にその土地の日本酒を味わう・・・というのは、

最近の楽しみの一つである。日本酒は名前の良さで選ぶ程度の知識しかない僕が言うのもなんだが、結構ハマってしまった。

◆コースタイム

登山口（9:03）～（11:09）1030m付近（11:35）～（12:29）登山口

12/29 北八甲田・硫黄岳

メンバー：T野・N井・T村m・K井・Y科・A原・T村e・T木・K田



目覚めると星が出ている。今日は期待できそうだ。ということで、森林限界の上にある硫黄岳の大斜面を目指すことにして大鰐温泉の宿を出発。今日は城ヶ倉大橋のゲートは問題なさそうなので、黒石経由で下道を行く。酸ヶ湯の駐車場に車を止め、陽光に輝く大岳に見守られて8:15に出発。今日は良い！！天気が良いとこんなに気持ちが弾むものなのか！！

白いサンゴ礁を思わせる低灌木、氷の花を満開に咲かせた樹々、それらが蒼空をバックに映えまくる！！さらに、荘厳な雰囲気漂わせる八甲田の主峰、大岳、南八甲田の主峰、櫛ヶ峰や、明日登る予定の横岳も見渡せる。そんな登りは楽しい！！

■写真上 陽光に輝く大岳に見送られて出発！！

■写真下 純白の氷の花が咲く素晴らしい森！！



写真の枚数がどんどん増える。つい何枚も同じ構図で撮ってしまうのはいつものことだが、分かっているにもかかわらず止められないものだ。雪も昨日と比べて締まった

のか、軽く感じる。これはいい1日になりそうだ！！「THE DAY！！」だね！！と登っている時はウハウハであった。

稜線に出ると、天気は崩れ始めていた。「午前勝負」というのは分かっていたのでそれなりのペースで登る。まだ、かろうじて小岳や高田大岳も顔を見せている。硫黄岳の東斜面には魅惑的なシュプールが数本、我々を手招きしている。



山頂には10:19に着いた！！
すべてを整えて10:38にいざ、
滑降開始！！

N井さんに先陣を任せて僕は
ビデオを撮る。

「ありゃーなんか変だぞー」
いつもはスピードに乗って切れ
のある滑りを展開するN井さん
が何かもたついている。次々に
メンバーに滑ってもらうが皆、
ぎこちない。今日、最大の見せ
場なのに、何かがおかしい。

最後に自分で滑ってみて納得。
いわゆるこれは「生コン」と呼
ばれる雪質である。めったにお
目にかかる雪質ではないし、
もちろん、お目にかかって嬉し
い雪質でも決してない。40年近
い山スキー人生でワースト5に
堂々入選する有難くない雪質だ
った。もちろん、おかわりなん
てもっての外である。サッサと
登り返して帰るとしよう。残
念！！

■写真上 こんな日のスキーは
楽しい！！

■写真中 荘厳な姿を見せる大
岳。

■写真下 稜線はシュカブラの
海！！



ところが、酸ヶ湯側の斜面
（西斜面）は、打って変わって
雪が軽く、まだ雪が生きていて
快適に滑れる。先程の硫黄岳東
斜面と比べると、傾斜もなく地
味ではあるが、滑りは天国と地
獄。非常に気持ち良くスキーを
廻せる。ここで、再び皆に笑顔
が戻った。「良い景色も見ること
ができたし、雪山登山としては
充分楽しめたね。」と負け惜
しみではないが、自分を納得さ
せようとしていたのは事実だが、

ここを快適に滑ったことで、この時は、負け惜しみではなく、ホントにいい日であったと思えるようになっていた。



こうして、酸ヶ湯まで順調に滑り、12:20 には下山。ここで再び欲が出てきた。

まず、今滑ってきた斜面のように、森の中は雪が良いのではないかな。であれば、銅像コースなら、2 時間 1 本勝負で楽しめるのではないかな。そして、若い K 田ちゃんが行きたがっている。我々があんまり軟弱だと、もう遊んでももらえなくなるかもしれない。最後に、僕自身、今日はやり切った感を味わいたい！！



■写真上 小岳と高田大岳

■写真中 稜線を歩く。

■写真下左 生コンを上手に滑る！！

■写真下右 12/29 の硫黄岳の軌跡

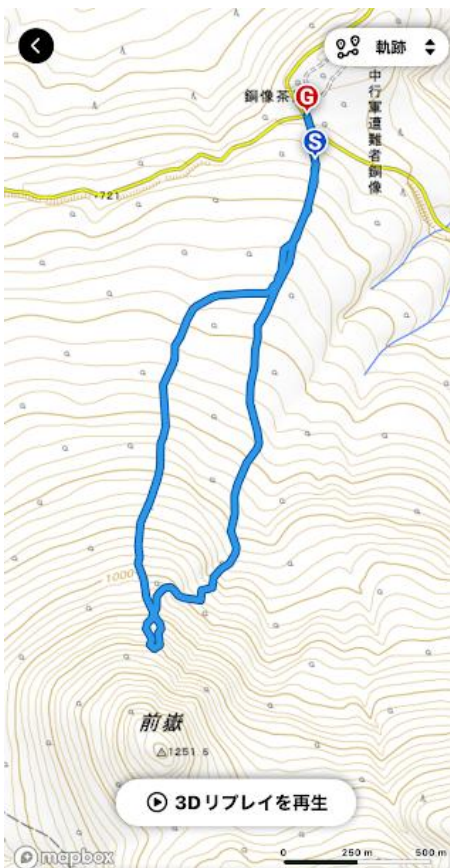
ということで、メンバーに聞いてみると、K 田ちゃんと A 原さんが僕に賛同。N 井さんと玉ちゃんは酸ヶ



湯にゆっくり浸かりたいという。そして、他のメンバーは、宿に帰ってそれぞれのんびり宿ライフを楽しみたいという。車がちょうど 3 台あるので、3 パーティーに分かれてここからは自由行動にしましょう、と話がまとまる。

12/29 北八甲田・銅像ルート

メンバー：T 野・A 原・K 田



僕とK田チャン、A原さんは銅像茶屋から、15 時下山目標で、13:20 に銅像茶屋をスタート。人気ルートなので多くのトレースがあり、今日の賑わいが想像できる。登高時にも、途中、20 人位はすれ違ったので、さすがにもうギタギタかな？ と少し思ったが、滑りのトレースの多くは東側の沢の向こうから来ているようだ。

一方、傾斜が急になるにつれ、我々が辿る登りトレースの周りは滑りのトレースがなくなり、この斜面の周辺を滑れば、まだまだノートレースの斜面を滑ることができることが判り、俄然、モチベーションが上がってきた。

時間も時間なので休むことなく登り続け、14:30 に 1100m 付近まで登り、ここを今日の終了点とする。青森方面の景色が開け、青森の市街地と陸奥湾が意外に近くに見える。滑降の準備を整えて 14:45 滑降開始！！

想像した通り、樹林帯の北斜面は雪が生きていた！！登りト

レースは無視して滑りやすいところをガンガン滑って行く。気持ちいい！！登りトレースはかなり右にあるが、最悪、深雪の平坦地にハマっても、シールを履いて戻ればいいので斜面の楽しさを最優先にして滑る。795m 付近まで最高の滑りを堪能した。傾斜がなくなってきたのでここからルート修正、シールを貼ることなく 10 分ほどのトラバースで登りトレースに合流した。最後は、登りトレースを自動運転で滑れば 15:15 銅像茶屋に無事帰還。大充実、来て良かった！！

■写真上 登るにつれ、青森市街地や陸奥湾が見えてきた。

■写真中 いい雪である！！

■写真下 12/29 の銅像ルートの軌跡。

今日の我々の下山飯は、ちょっと豪華に僕とA原さんはサーロインステーキ、K田チャンも 300 g の特大ハンバーグステーキ！！いわゆるご褒美というやつである。

宿に戻り、今日はお酒は控えめに・・・と思っていたが、Y科さんが、青森で人気NO1 の銘酒「豊盃」を購入していて、我慢できずについ 1 杯・2 杯・・・Y科さん、

ご馳走様でした。

今日も良き1日であった。

◆コースタイム

酸ヶ湯駐車場（8:15）～（10:20）硫黄岳（10:37）～東斜面滑降～（10:42）1200m付近
（11:05）～（11:19）1295m付近稜線（11:35）～（12:20）酸ヶ湯駐車場

銅像茶屋（13:20）～（14:30）1100m付近（14:45）～（15:15）銅像茶屋

12/30 南八甲田・横岳

メンバー：T野・N井・T村m・K井・Y科・A原・T村e・T木・K田



今日は、曇りベースで時々雪が降るという。山行終了後には岩手県の鶯宿温泉に移動しなければならないので、比較的短時間で楽しめる南八甲田の横岳に向かう。横岳は、昨年の3月下旬に城ヶ倉大橋から逆川岳経由で訪れたことがある。その時は、雪も締まっていたので、メインルートを外れて、記録のない魅力的な斜面を見つけて、標高差で250m～300mクラスのいい感じの尾根や斜面を、縦横無尽に滑って遊んだ楽しい記憶がある。その一方、昨年の年末、ちょうど1年前だが、今回のルートと同様、南目屋から横岳を目指そうとしたが、豪雪で2駆の僕の手がスタックして、JAF騒ぎとなり、山行を断念した苦い記憶もある。今年は、去年と違って少雪で、車も4駆になったので、その辺は心配ないが、逆に雪が少なすぎて藪スキーになる可能性がある。果たしてどちらに転ぶのだろうか？

■写真上 最初の雪原歩き。

■写真下 ブナの森で休憩。



南目屋の集落は、決まった駐車スペースはないので、地元の人に迷惑がかからないように駐車場所を考える必要がある。降雪が激しく、除雪車が出動するような日は、このルートは遠慮した方が良さそうだ。今日は除雪車が来るような予報ではないので、我々は、除雪終了点に4台縦列で駐車し、念のため近所の家にも声をかけたが、どこの家も応答はなく、問題が起きないように祈りながら 8:40 出発。

■写真上 横岳山頂！！

■写真下 ブナの森を快適に滑降！！

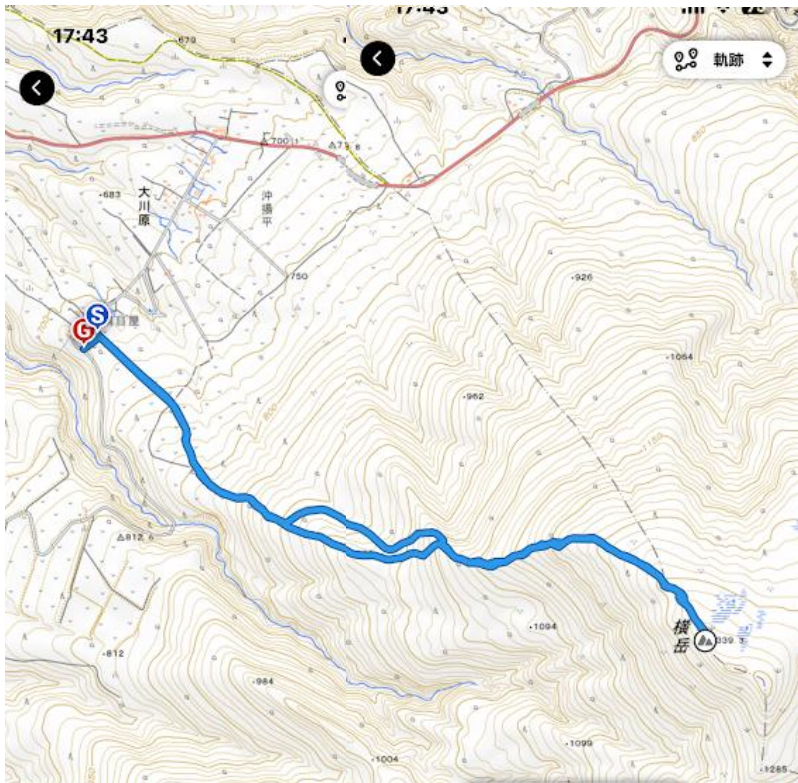


最初は、傾斜の緩い雪原を歩く。雪原といっても、地図を確認すると雪がない時は車道のような。周りは牧草地かな？ 後方には青森の市街地と陸奥湾が望め、真っ白な雪原歩きは気持ちがいい。やがて、雪原歩きは終わり、横岳から北西に延びる尾根に取付く。やや

藪が目立つものの何とか滑降は可能なようだ。あとはこの尾根を忠実に登って行く。登るにつれ、雪は増えて藪はだんだん気にならなくなる。特に、980m標高点付近は八甲田らしいブナ林で帰路が楽しみである。標高が上がるにつれ、低灌木や針葉樹が多くなり、風の影響を受けるようになる。視界も悪くなってきたが、進めない・・・というほどでもない。傾斜が落ちて、まばらに針葉樹がある稜線を歩いて行く。もう少し経つとこの辺りは見事なモンスター群になるのであろう。どこが山頂かも判然としない緩い稜線を、ヤママップを頼りに進み、道標は見当たらなかったがヤママップの山頂と一致したところを山頂とした。11:07 横岳登頂！！

ホワイトアウトに近い状態で、景色は全く望めないが、一応、山頂をゲットしたので満足だ。

11:30 滑降開始。ルートが良く見えないだけでなく、傾斜が緩く板が滑るかどうかかわからないので、最初はシールで降りようかと一瞬思ったが、稜線は風の影響で雪が締まっていることから考え直し、山頂からシールオフして滑り出す。ホワイトアウトで視界が全く効かないので、最初は、目を凝らして登りトレースを追い、ルートから外れないように慎重に滑る。やがて樹林が濃くなれば凹凸がわかりやすくなり、少しずつ大胆に滑れるようになる。森の中に入ればもうこっちのもの！！登りのトレースはそれほど気にせず、樹林の隙間の広いところを見つながら快適滑降！！



特に、982m標高点付近の緩い地形は、尾根沿いを行かず、右側の沢状地形を滑る。この辺りのブナ林は樹間も広く、今日一番楽しいところだった。尾根に向けてわずかなトラバースで、再び登リトレースに戻ると、多少薙っぽくなるが、まだまだ楽しめ、あっという間に雪原に降り立った。あとはゲレンデのような雪原をひと滑りで 12:30 無事帰還。疲れ様でした！！

■写真 12/30 の横岳の軌跡。

南目屋～横岳も森の中で遊べる楽しいルートでした。多少天気が悪くても行動可能で、北西に向けた尾根なので、日

当たりが少ない分雪質が期待できます。往復するだけなら標高差も 600m 程度なので、初心者にもお勧めできます。中・上級者や時間に余裕がある人は、1200m 付近～900m 付近の北西斜面や西斜面は楽しそうなところも多いので、この辺りで何回か登り返して遊べばより充実するでしょう！！

さて、今日の下山飯は一昨日行ったカレー屋の隣にある中華レストラン。僕は海老タンメンと小籠包で満足！！麻婆豆腐も旨そうだった。ここで、T 村さん夫妻と K 田ちゃんはお別れ、また、ぜひ一緒しましょう！！良いお年を！！

お腹を満たしたら、今日の宿、鶯宿温泉に移動。鶯宿温泉も学生の合宿のような部屋だが格安で温泉付き、文句はありません！！岩手の銘酒を 3 人で共同購入。もちろん、一人で 1 本買わないのは深酒対策です。

◆コースタイム

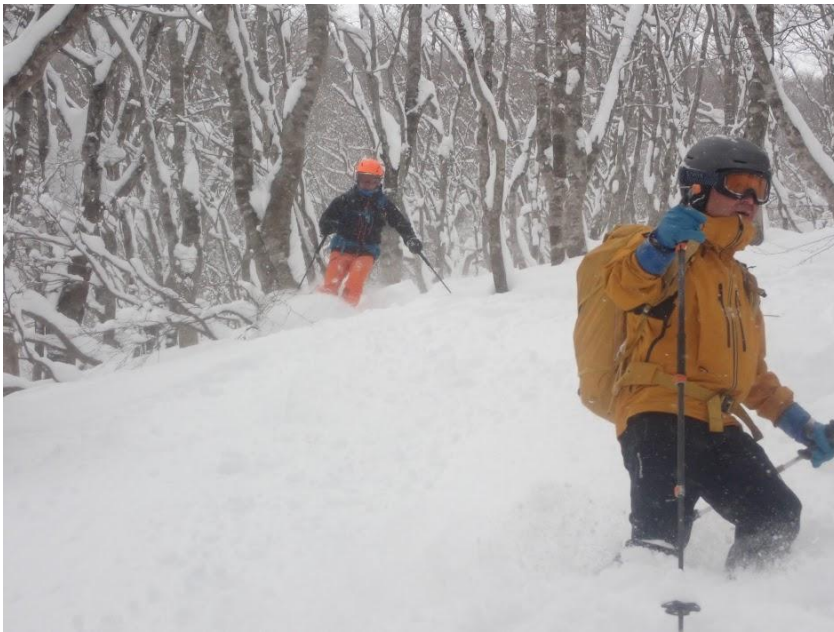
南目屋 (8:40) ～ (11:07) 横岳 (11:30) ～ (12:30) 南目屋

12/31 網張スキー場周辺サイドカントリー

メンバー：T 野・N 井・K 井・Y 科・A 原・T 木

昨日の晩から本降りの雪である。4 日間結構遊んだし、こんな天気だと今一つモチベーションは上がらない。とりあえず行ってみて状態が悪ければそのまま滑らないで帰京するのもありかな？ そんな中途半端な気持ちで網張スキー場に向かう。

スキー場に着いてみると、積雪は公称 75cm、でも初日に訪れた時と比べ、ずいぶん増えたような感じがする。気温も低く、雪質も良さそう。とりあえず、いつも通りリフト 3 回券を購入して登って見ることにする。モチベーションの低さが功を奏し、のんびり来たことで第 3 リフトがちょうど動き出した。リフト券 3 枚すべて使い、ゲレンデトップまで行く途中、周りの状況を見て、これならサイドカントリーが楽しめるかもしれない、と思えてきた。



第3リフトの降り場で「恨みっこなしですよ！！」とメンバーに確認してサイドカントリーには行ってみることにした。これが大当たり！！

雪の良さでは今回一番！！最高のパウダーが我々を待っていてくれた。まだ、若干沢型が埋まり切っておらず、うねりがあって油断して滑っていると突っ込む可能性もあるが概ね仕上げっていた。

これは文句なく楽しい！！



思わず声が出る快適な滑りを標高差で約580m楽しむ。今回はギタギタなゲレンデ寄りのサイドカントリーを滑ったが、まだ入る人がほとんどいないようで1本だけシュプールがあったが、逆にこれがいい道しるべとなる。例年だとこの辺りはギタギタになっているので、もっと西寄りを滑り、奥産道に降りて15～20分歩いてゲレンデに戻るのだが、今回は、ほとんどノートレースだったので、直接ゲレンデ下部に滑り込めるこのルートを通り、効率よく最高の滑りを楽しむことができた。もし、今日、帰京しないでよいのならおかわりしたいくらい楽しかったが、まあ、「終わり良ければ総て良し」である。朝のモチベーションの低さはどこへやら・・・気持ち良くツアーを終えることができた。

下山飯は「ピョンピョン社」で焼肉&冷麺と行きたかったがなんと大みそかは休業。ではと「焼肉のヤマト」に行くがここも休業。仕方なく盛岡のイオンに入り、すぐに入るとんかつ屋で打ち上げ！！そして潔く解散！！皆さん、良いお年を・・・！！

■写真上 楽しいな！！

■写真下 12/31 網張サイドカントリーの軌跡。